

2025 年 7・8 月実施入試（夏入試）

電気系（電気工学専攻・電子工学専攻）

博士課程前後期連携教育プログラム（高度工学コース・融合工学コース）

I. 専攻別志望区分一覧

表 1 博士課程前後期連携教育プログラムの志望区分一覧

専攻	志望区分	研究内容	前後期連携教育プログラム	
			融合工学コース	高度工学コース
電気工学専攻	1	先端電気システム論 (非線形システム、エネルギーシステム・モビリティ、制御応用・ロボット) 薄教授、グエン講師、持山助教	融合光・電子科学創成分野 任意の志望区分を選択することができます。	光・電子理工学 任意の志望区分を選択することができます。
	2	自動制御工学 (制御工学、システム・制御理論、数値最適化手法、システム解析) 萩原教授、細江准教授		
	3	システム創成論 (システム理論の生体計測応用、波動イメージングと逆問題、生体システム信号処理、人体電波センシング) 阪本教授		
	4	生体機能工学 (マルチモーダル生体信号処理、統計的機械学習、生体磁気計測、脳機能イメージング、量子磁気センサ) 吉井教授、伊藤准教授、上田博助教		
	5	超伝導工学 (超伝導体の電磁現象、超伝導マグネットの電磁特性、超伝導の医療応用、超伝導のエネルギー応用) 雨宮教授、曽我部助教		
	6	電磁回路工学 (電気電子回路、電気電磁回路、エネルギー回路、機械学習による回路設計、ネットワーク数理) 久門准教授		
	7	電磁エネルギー工学 (電磁気学、マイクロ磁気学、電磁界解析、計算工学) 松尾教授、美舩准教授		
	8	電波科学シミュレーション (電磁力学、プラズマ理工学、計算機シミュレーション、宇宙空間物理学) 海老原教授、謝講師		
	9	宇宙電波工学 (宇宙電波工学、宇宙プラズマ理工学) 小嶋教授、栗田准教授、上田義助教		
	10	マイクロ波エネルギー伝送 (マイクロ波工学、無線電力伝送、マイクロ波応用工学) 篠原教授、三谷准教授		
	11	優しい地球環境を実現する先端電気機器工学 (電気機器、輸送機器、再生可能エネルギー、超伝導機器) 中村教授†、寺尾准教授†		

電子工学専攻	12	集積機能工学 (超伝導・磁性物性、超伝導・磁性材料、超伝導デバイス工学、テラヘルツ分光、極微真空電子工学) 米澤教授、掛谷准教授、後藤准教授、池田助教	融合光・電子科学創成分野 任意の志望区分を選択することができます。	光・電子理工学 任意の志望区分を選択することができます。
	13	極微電子工学 (量子スピントロニクス、純スピン流デバイス物性、トポロジカル物性物理) 白石教授、プエブラ准教授、大島助教		
	14	応用量子物性 (光量子情報、ナノフォトニクス、光量子計測) 竹内教授、岡本准教授、向井助教		
	15	半導体物性工学 (半導体工学、電子材料、エネルギー変換素子、電子デバイス工学) 木本教授、金子助教		
	16	電子材料物性工学 (電子材料物性、プローブ顕微鏡、ナノエレクトロニクス、有機・バイオエレクトロニクス) 小林准教授		
	17	光材料物性工学 (光電子材料、光物性工学、光応用工学) 船戸教授†、正直講師、石井助教、松田助教†		
	18	光量子電子工学 (固体電子工学、光電子工学、光量子電子工学) 浅野教授†、吉田助教		
	19	量子電磁工学 (電磁波工学、メタマテリアル、テラヘルツ工学、量子エレクトロニクス) 杉山准教授、中西講師		
	20	ナノプロセス工学 (ナノ構造物理、デバイスプロセス工学、新機能デバイス工学) テラヘルツメカ教授、井上助教		

†…特定教員

入学後に履修するコースを、融合工学コース（融合光・電子科学創成分野）、高度工学コース（光・電子理工学）から願書提出時に選択して下さい。

Ⅱ．募集人員

2025 年度 10 月期入学：

電気工学専攻 若干名

電子工学専攻 若干名

2026 年度 4 月期入学：

電気工学専攻 10 名

電子工学専攻 10 名

※入学時期を 2025 年度 10 月期あるいは 2026 年度 4 月期のいずれかから選択すること。出願後は、入学時期の変更はできないので、事前に受入予定教員とよく相談のうえ入学時期を決定すること。インターネット出願システム上で、2025 年度 10 月期入学と 2026 年度 4 月期入学のいずれかを選択すること。

Ⅲ．出願資格

(1)募集要項 Part A:Ⅱ－i 出願資格に記載の条件を満たす者。

(2) 受験区分

A	京都大学大学院工学研究科・電気系博士課程前後期連携教育プログラムを出願時点で履修中の者で修士課程修了見込者
B	京都大学工学部卒業者で修士課程修了（見込）者であり筆記試験免除者＊
C	京都大学大学院工学研究科・情報学研究科・エネルギー科学研究科修士課程修了（見込）者で筆記試験免除者＊＊
D	京都大学大学院工学研究科・情報学研究科・エネルギー科学研究科修士課程修了（見込）者で筆記試験非免除者
E	上記以外の受験者

＊ 学部において所定の成績を修めた者。

＊＊ 修士課程において所定の成績を修めた者。

※筆記試験免除の有無については、出願後に A クラスター教務掛から各受験者に通知する。

Ⅳ．学力検査日程

(1) 試験日時・試験科目

期日	受験区分	時 間	試験科目	受験区分	時 間	試験科目
7 月 31 日（木）	D E	9：00～12：00	専門科目	B C D E	13：00～	口頭試問
8 月 1 日（金）	A B C D E	10：00～	面 接 （Aは全員、 B、C、D、Eは 留学生のみ）			

＊試験場は桂キャンパス A クラスターである。詳細は受験票送付時に通知する。

V. 入学試験詳細

(1) 英語

受験区分 E の該当者のみ。TOEFL、TOEIC、または IELTS の成績により評価する。

(受験区分 A、B、C、D の該当者は提出の必要はない。)

- TOEFL-iBT の成績証明書 (Test Taker Score Report) の原本 (コピーや受験者自身で印刷したものは不可) (オンラインでのテスト申込時に ETS アカウントのスコア通知設定 (Score reporting Preference) ページで「オンライン上でのスコアレポートと郵送されたコピー」を選択しないと発行・送付されない) ので注意のこと。 なお、Test Date scores のみを利用し、MyBest™ scores は利用しない。また、TOEFL iBT Home Edition のスコアは認めないので、注意すること。
団体試験の TOEFL-ITP の成績証明書は受け付けないので、注意すること。

- TOEIC の場合は TOEIC Listening & Reading 公開テストによる公式認定証 (Official Score Certificate) の原本のほかにデジタル公式認定証 (Digital Official Score Certificate) を印刷したものも認める。ただし、いずれの場合も紙媒体として提出すること。

団体試験の TOEIC-IP の成績証明書は受け付けないので、注意すること。

- IELTS の場合は Academic Module のみを有効とし、成績証明書 (Test Report Form) の原本のみ受け付ける。

いずれか (ただし、受験日 (2025 年 7 月 31 日) から過去 2 年以内に受験した成績証明書に限る。) を次頁 VII. (5) の別途書類提出先宛に提出すること (提出後の変更は認めない)。また、英語を母国語とする受験者も TOEFL 等の成績証明書の提出を必要とする。 提出された TOEFL 等の成績証明書は、試験日に返却する。

(2) 専門科目

専門科目は筆記試験とし、志望区分 (志望研究室) の研究内容に関連する電気・電子工学の基礎科目から、合計 3 題出題する。出願後に、出題科目を A クラスター教務掛から各受験者に通知する。3 題とも解答すること。

筆記試験の注意事項

- 試験中に使用を許可するのは、鉛筆、シャープペンシル (ボールペンは不可)、鉛筆削り (電動式を除く)、消しゴム、時計 (計時機能のみのもの。スマートウォッチは使用不可)、眼鏡に限る。
- 電卓、辞書、定規およびこれに類するものの持ち込みは認めない。
- 携帯電話、スマートフォン、スマートウォッチ等の電子機器類はなるべく持ち込まないこと。持ち込む場合には電源を切り、かばんにしまって所定の場所に置くこと。身につけている場合、不正行為とみなされる場合があるので注意すること。
- 試験当日は、試験開始 30 分前までに指定された試験室前に集合すること。なお、試験開始時刻から 30 分以降は入室できない。
- 試験室については、受験票送付時に通知する。

(3) 口頭試問

(a) 口頭試問では、受験者はまず修士課程における研究内容と進展状況 (社会人特別選抜受験者の場合は在職中の研究内容)、ついで博士後期課程における研究計画等について説明する。その後教員から試問が行われる。口頭試問時間は、説明が 8 分、質疑応答を含めて全部でおよそ 20 分とする。

(b) 説明に当たっては、原則として原稿を読み上げるようなことはしないこと。

(c) 説明用資料 (パワーポイントのスライドなどで 5 ページ以内、A4 判 5 枚以内に印刷できるもの) を用意し、持参したパソコンを用いて説明すること。

(4) 面接

A は全員が面接対象、B、C、D、E は留学生のみ

VI. 合格者決定方法

筆記試験（専門科目）の成績（対象者のみ）と、学部成績、修士成績、口頭試問（対象者のみ）および面接（対象者のみ）により有資格者を決定し、研究遂行能力等を専攻内で判断のうえ、可否を決定する。

VII. 出願要領

(1) 志望区分の申請

インターネット出願システムの志望情報入力画面で志望区分を選択すること。

本専攻出願にあたっては、志望区分の指導予定教員に必ず連絡を取っておくこと（事前コンタクト）。教員が不明の場合やその他不明なことがあれば、「(5) 問い合わせ先」に連絡すること。詳しい研究内容については、専攻ホームページ <https://www.ee.t.kyoto-u.ac.jp/> を参照すること。

(2) 事前コンタクト

事前コンタクトについては、募集要項 Part A: III に記載している通りである。

(3) 口頭試問の発表指導

口頭試問の発表指導については、募集要項 Part A: IV-iii に記載している通りである。

(4) 別途提出書類（様式は工学研究科ホームページからダウンロードすること）

(a) 提出書類：A の該当者

(a-1) 履歴書・希望事項調査

(b) 提出書類：B、C、D、E の該当者

(b-1) 履歴書・希望事項調査

(b-2) 修士課程における研究内容説明書（※）

(b-3) 博士課程前後期連携教育プログラムにおける研究計画説明書（※）

(b-4) TOEFL の成績証明書（Test Taker Score Report）の原本または TOEIC 公式認定証（Official Score Certificate）の原本（デジタル公式認定証（Digital Official Score Certificate）を印刷したものも認める。ただし、紙媒体として提出すること。）もしくは IELTS 成績証明書（Test Report Form）の原本。

（B、C、D の該当者は不要）

(b-5) 学部の成績証明書（京都大学工学部電気電子工学科を卒業した者は不要）

【可能な限り、和文又は英文で提出すること】

（※）（b-2）（b-3）については、自由様式でも可能だが、A4 用紙 1 枚でまとめること。

(c) 出願方法

上記(a)(b)の**提出書類全てについて**、様式に必要事項を記載し、**6月11日(水)16時（厳守）**までに到着するように、次項(5)宛に送付または持参すること。

(5) 問い合わせ先・別途書類提出先

〒615-8510 京都市西京区京都大学桂

電話：075-383-2077

京都大学 A クラスター事務区教務掛（電気系）

FAX：075-383-2078

E-mail: 090kakyomudenki@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp

（メールで問い合わせる場合、電気系志望と記述すること）

HP: <https://www.ee.t.kyoto-u.ac.jp/>

Ⅷ. 入学後の教育プログラムの選択

B、C、D、E の該当者は、博士後期課程入学後には 2 種類の教育プログラムが準備されている。入試区分「電気・電子工学専攻」の入試に合格することにより履修できる教育プログラムは下記の通りである。

(a)連携教育プログラム 融合工学コース（融合光・電子科学創成分野）

(b)連携教育プログラム 高度工学コース（光・電子理工学）

いずれのプログラムの履修を志望するかは、受験者の希望と受入教員の判断に応じて決定する。詳細については、「Ⅰ. 専攻別志望区分一覧」を参照のこと。また、教育プログラムの内容については、工学研究科 HP（「工学研究科教育プログラム」

<https://www.t.kyoto-u.ac.jp/ja/education/graduate/dosj69>）および、次項の「Ⅸ. 教育プログラムの内容について」を参照すること。

Ⅸ. 教育プログラムの内容について

【融合工学コース（融合光・電子科学創成分野）】

21 世紀においては全世界規模で情報処理量とエネルギー消費が爆発的に増大し、既存の材料・概念で構成されるハードウェアの性能限界と地球資源の枯渇が顕著になると予測されています。このような課題の解決に貢献し、光・電子科学分野で世界を先導するためには、電気エネルギー・システム工学、電子工学、量子物性工学、材料科学、化学工学、光機能工学、集積システム工学、量子物理工学など複数の異分野を融合して新しい学術分野を開拓し、かつ当該分野を牽引する若手研究者、高度技術者を育成することが重要です。

本教育プログラムでは、光・電子科学に関わる融合領域を開拓する教育研究を通じて、新しい学術分野における高い専門的知識・能力に加えて、既存の物理限界を超える概念・機能を創出する革新的創造性を備えた人材の育成を目指します。究極的な光子制御による新機能光学素子や高効率固体照明の実現、極限的な電子制御による耐環境素子や超集積システムの実現、光・スピン・イオンを用いた新機能素子や新規プロセスの開発、強相関電子系物質や分子ナノ物質の創成と物性制御、高密度エネルギーシステムの制御とその基礎理論、新しい物理現象を用いたナノレベル計測とその学理探求などの融合分野において、常に世界を意識した教育研究を推進します。様々な分野で世界的に活躍する教員による基盤のおよび先端的な講義、各学生の目的に応じたテーラーメイドのカリキュラムやインターンシップ等を活用した教育、光・電子理工学教育研究センターの協力を得て行う先端的融合研究を通じて、広い視野と高い独創性、国際性、自立性を涵養し、光・電子科学分野を牽引する人材を育成します。

【高度工学コース（光・電子理工学）】

高度でインテリジェントな将来型情報通信社会を実現するために必要なハードウェア技術の基礎から最先端研究レベルまでの学習と、デバイスからシステムに至るまで、発展する電気電子フロンティア基盤科学技術の修得を通して、広範な科学知識とフレキシブルな創造性を備えた豊かな人材を育成します。このプログラムの推進する教育及び研究は、光においては、任意の波長、強度、方向の、発光及び受光を可能にして光を自在にあやつり、電子においては、これまでの概念を超えるデバイスや量子効果などを通して、光と電子を極限まで制御することとその理解を目的とします。フォトリソグラフィやワイドギャップ半導体、分子ナノデバイスや量子凝縮系デバイスなどの新規材料・デバイス創成、パワーデバイス、電子・光・イオンによる革新的ナノプロセス、集積システム、環境エネルギーシステムとその制御、量子生体計測など、世界でトップクラスの研究成果を挙げている分野で教育と研究を推進することにより、博士号取得の段階で、自立し、幅広い専門知識を有し、国際的に通用する一流の人材を育成します。

X. 教員・研究内容一覧

(電気工学専攻)

教 員 名	研 究 内 容	区 分
薄 教授 グエン講師 持山 助教	<u>先端電気システム論研究室</u> (1) 非線形・多自由度システムの理論とデータ駆動型工学 (2) ソフトウェア工学による複雑システムの制御 (3) エネルギーシステム・モビリティシステムの解析・制御・設計 (4) 環境適応型ロボット歩行、ベストエフォート型モータドライブ	第1
萩原 教授 細江 准教授	<u>自動制御工学研究室</u> (1) 確率的なダイナミクスをもつ系の解析と制御 (2) ロバスト制御系の解析と設計 (3) 機械系等に対する制御理論の応用に関する実験的研究	第2
阪本 教授	<u>システム創成論研究室</u> (1) システム理論の生体計測応用 (2) 波動イメージングと逆問題 (3) 生体システム信号処理 (4) 人体電波センシング	第3
吉井 教授 伊藤 准教授 上田博 助教	<u>生体機能工学研究室</u> (1) 統計的マルチモーダル生体信号処理（聴覚・視覚・脳） (2) 物理拘束付き確率モデル・深層学習 (3) 光量子磁気センサによる生体磁気計測 (4) MRI を用いたスピンロックシーケンスによる脳機能イメージング	第4
雨宮 教授 曾我部 助教	<u>超伝導工学研究室</u> (1) 超伝導体の電磁現象 (2) 超伝導マグネットの電磁特性 (3) 超伝導の医療応用 (4) 超伝導のエネルギー応用	第5
久門 准教授	<u>電磁回路工学研究室</u> (1) 電磁現象を含む回路システムの基礎研究 (2) 高速高周波回路のモデル化とシステム信頼性に関する研究 (3) 機械学習を用いた回路設計とネットワークの数理 (4) 電力フローの設計・インタラクティブ制御・電力システムの診断	第6
松尾 教授 美舩 准教授	<u>電磁エネルギー工学研究室</u> (1) 電気電子機器に対するモデル縮約法の開発 (2) 磁性材料のマルチフィジクスモデリング (3) 高速高精度電磁界計算技術 (4) 電気電子機器/デバイス最適設計手法	第7
海老原 教授 謝 講師 (生存圏研究所)	<u>電波科学シミュレーション研究室</u> (1) 計算機シミュレーションによる宇宙環境変動に関する研究 (2) 計算機シミュレーションを用いた非線形プラズマ波動現象の研究 (3) 宇宙－地球間の電磁氣的結合に関する研究	第8
小嶋 教授 栗田 准教授 上田義 助教 (生存圏研究所)	<u>宇宙電波工学研究室</u> (1) 科学衛星観測による宇宙空間プラズマ環境の研究 (2) 科学衛星搭載観測機器の超小型化に関する研究 (3) 宇宙利用のためのナノ材料特性に関する研究	第9
篠原 教授 三谷 准教授 (生存圏研究所)	<u>マイクロ波エネルギー伝送研究室</u> (1) 宇宙太陽発電所 SPS に関する研究 (2) マイクロ波を用いた無線電力伝送に関する研究 (3) マイクロ波を用いた新材料創生に関する研究	第10
中村 教授† 寺尾 准教授† (寄附講座)	<u>優しい地球環境を実現する先端電気機器工学研究室</u> (1) 回転機を中心とする先端的電気機器の研究 (2) 輸送機器に関する研究 (3) 再生可能エネルギーの利用技術に関する研究 (4) 超伝導機器に関する研究	第11

(電子工学専攻)

教 員 名	研 究 内 容	区 分
米澤 教授 掛谷 准教授 後藤 准教授 池田 助教	<u>集積機能工学研究室</u> (1) 超伝導体や磁性体の新規物質応答・機能性の研究 (超伝導グループ) (2) 新規物質機能性の次世代測定技術の開発 (超伝導グループ) (3) 高温超伝導体のジョセフソン効果とエレクトロニクス応用 (超伝導グループ) (4) 巨視的量子状態のテラヘルツ時間領域分光 (超伝導グループ) (5) 耐過酷環境極微真空デバイスおよび新奇顕微質量分析技術の開発 (真空電子グループ)	第12
白石 教授 プエブラ准教授 大島 助教	<u>極微電子工学研究室</u> (1) 半導体量子スピントロニクスの研究 (2) 純スピン流物性物理の研究 (3) トポロジカル絶縁体/超伝導体・ワイル強磁性体などを用いた新奇な固体量子物性の研究 (4) 上記研究を基盤とした新機能デバイスや量子ハイブリッド系の創成と量子技術への発展	第13
竹内 教授 岡本 准教授 向井 助教	<u>応用量子物性研究室</u> (1) 光量子コンピュータ・量子シミュレーターや集積光量子回路の実現に関する研究 (2) 光量子情報等への応用にむけた、極微光デバイスの実現に関する研究 (3) 光子のさまざまな量子もつれ状態の生成と制御に関する研究 (4) 量子光を用いた、高感度・高分解能の新規光計測に関する研究	第14
木本 教授 金子助教	<u>半導体物性工学研究室</u> (1) 低次元半導体ナノ構造の電子輸送とデバイス応用 (2) 抵抗変化不揮発性メモリの基礎研究 (3) ワイドギャップ半導体シリコンカーバイド(SiC)パワーデバイスと高温動作集積回路	第15
小林 准教授	<u>電子材料物性工学研究室</u> (1) 走査型プローブ顕微鏡を用いた新規物性計測法の開発 (2) 電子材料のナノスケール構造・物性評価 (3) 有機薄膜デバイスの開発とその光・電子物性に関する研究 (4) バイオデバイス・センサの構築へ向けた生体分子の構造機能計測	第16
船戸 教授† 正直 講師 石井 助教 松田 助教†	<u>光材料物性工学研究室</u> (1) 窒化物半導体を用いた可視・紫外域光源の開発に関する研究 (2) 半導体のナノ局在系光物性の解明と制御に関する研究 (3) 高い時間・空間分解能を有する分光マッピング技術に関する研究 (4) 任意の波長合成を可能とするテラレーメイド光源の開発と応用に関する研究	第17
浅野 教授† 吉田 助教	<u>光量子電子工学研究室</u> (1) フォトニック結晶を用いた高ビーム品質・高輝度半導体レーザーの開発と応用 (2) フォトニック結晶レーザーの高機能化(ビーム偏向制御・短パルス化等)に関する研究 (3) 熱輻射制御による高効率光源およびエネルギー変換に関する研究 (4) 高Q値ナノ共振器と極微小光回路による自在な光子制御に関する研究 (5) ワイドギャップ半導体を用いた次世代フォトニック結晶の開発	第18
杉山 准教授 中西 講師	<u>量子電磁工学研究室</u> (1) 電磁メタマテリアルを用いたテラヘルツ波及びマイクロ波の制御 (2) メタマテリアルを用いた新しい物理現象の理論的提案 (3) テラヘルツ波の測定技術の開発	第19
デ・ゾイサ・メナカ 教授 井上 助教 (光・電子理工学教育 研究センター)	<u>ナノプロセス工学研究室</u> (1) ナノプロセス技術の深化に関する研究 (2) 熱制御に向けたナノ構造開発・評価 (3) フォトニックナノ構造レーザーの解析・作製・評価 (4) ナノ構造における電磁界シミュレーション	第20

†・・・特定教員